

平成18年1月13日

## 6号機原子炉建屋内での水漏れについて

当所6号機は定期検査中ですが、平成18年1月12日午後2時16分頃、原子炉建屋地下2階の残留熱除去系\*<sup>1</sup>ポンプ(A)出口側配管にある逆止弁の分解点検において、作業員が当該逆止弁の蓋のボルトを緩めたところ当該逆止弁のフランジ部\*<sup>2</sup>から水が養生外に溢れ出したことに気づき、ただちに当該ボルトを締め漏えいは停止しました。

原因については、当該逆止弁点検のため水抜きを実施しておりましたが、当該逆止弁の出口配管内の水は一部水が残る構造であるため養生は実施していたものの、当該逆止弁の蓋に取り付けられたボルトを緩めすぎたため、養生で受けきれず、養生外に溢れたことがわかりました。

今回の対応として、ボルトを緩める際は養生から残水が溢れ出ないように徐々に行うとともに、当該逆止弁と同様な大型弁を点検する際は養生を十分に行い、養生内に溜まった水を排水口に導くよう作業要領書に明記いたします。

また、今回の事象について事例検討会を行い、再発防止に努めてまいります。

漏えいした水は堰内にとどまっており、漏えい量は約60.5リットル(養生内で約1.5リットル、養生外で約59リットル)で、回収・清掃を実施いたしました。

また、養生外へ漏えいした水の放射エネルギーは約 $8.08 \times 10^6$ ベクレルでした。これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

\*1 残留熱除去系

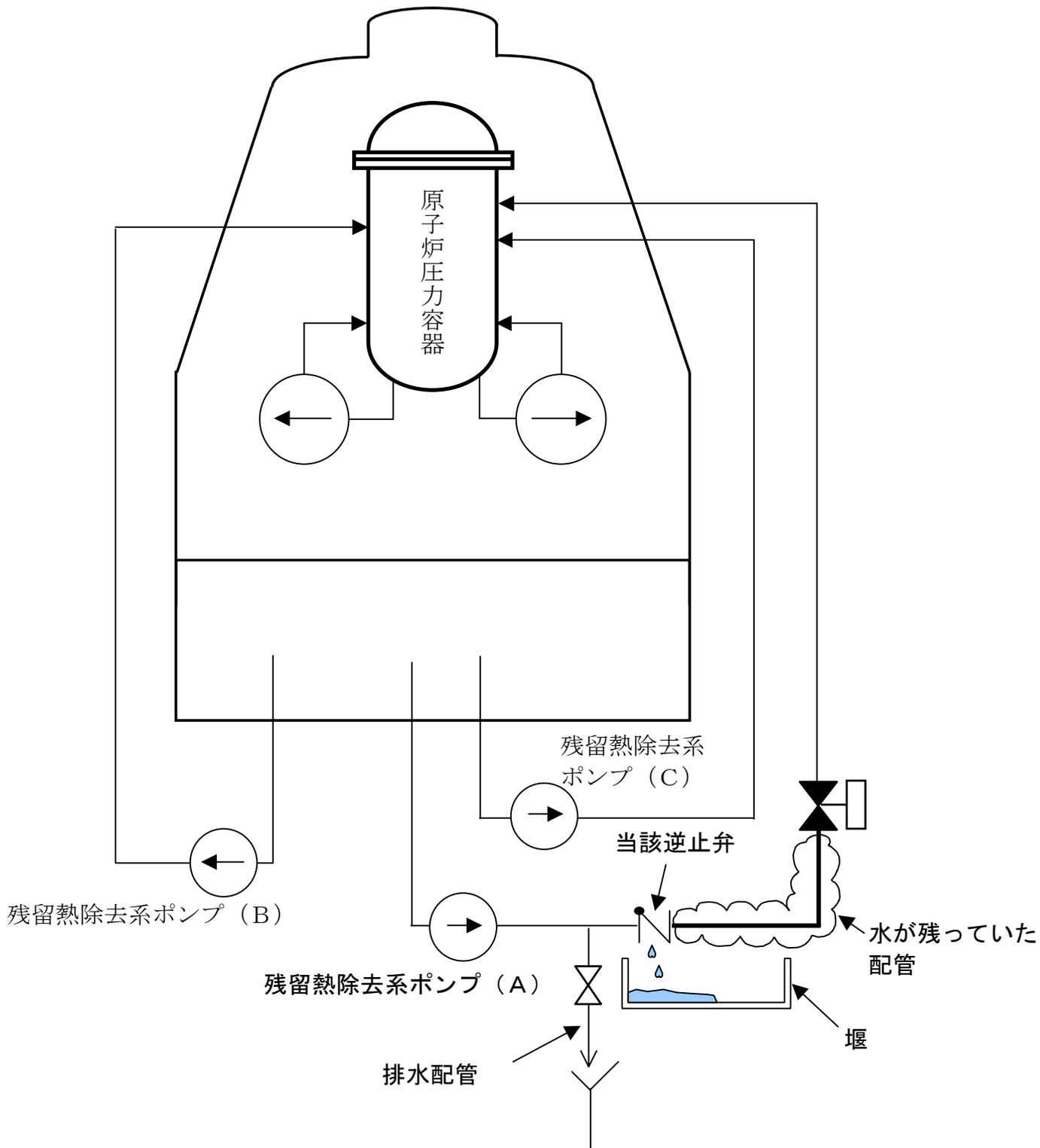
原子炉を停止した後の冷却(燃料の崩壊熱の除去)や非常時に原子炉水位を維持する系統。

\*2 当該逆止弁のフランジ部

弁体を収納する弁箱と、それに蓋をする蓋部の継ぎ目のこと。

これは「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」(平成15年11月10日お知らせ済み)における区分Ⅲの事象として、前日に発生した不適合事象を翌営業日に公表しているものです。

原子炉格納容器



6号機原子炉建屋内における水漏れ概略図